

ハイデルベルク信仰問答より

問 78 パンとぶどう酒は、キリストのからだと血そのものになるのですか。

答え いいえ、なりません。なぜなら、洗礼の水がキリストの血に変わらないように、また、水そのものによって罪を洗い潔めることにはならないように、それはただ神のしるし、また確証にすぎないのであり、したがって、聖餐における聖きパンもまた、キリストの体と呼ばれてはいますが、聖礼典の様式と用法に従って、キリストの体そのものになるのではありません。

まず、この問いが現代における陪餐者に対して意味を持つのかどうかを考えてみたいと思います。聖餐論にまつわるいくつかの立場を比較することは、神学教育において必須のことではありますが、礼拝の現場において聖餐にあずかる信者にとって何らかの益になるのでしょうか。宗教改革時代の論争を、500年経った今わざわざほじくり返す必要はあるのか。

もしこの学びに意味があるとするならば、宗教改革時代に明らかになった聖餐理解の違いが現代のキリスト教会においても未だに生き残っているということでしょう。そして、その理解の違いが何らかの不一致を教派間にもたらしているはずで

ある教派に属している人が、他の教派の教会の礼拝に出席した際に、聖餐理解の違いによって陪餐できないという事態が生じたとするならば、これは現実問題となります。あるいは、転入会者が、聖餐式のときに読み上げられる式文の内容を聞いて、それまで属してきた教会の考え方と著しく異なると感じた場合にも、類似する問題が現存することになるでしょう。

ただ実際、プロテスタントのほとんどの教会は、何らかの事情によって他教派から移ってきた人々を含めたメンバーによって構成されていますので、聖餐理解に多少なりとも異なる理解をもってあずかっている可能性があり、敢えてそれを公に言い表すことをしないだけなのかもしれません。場合によっては、心の中では式文の内容と異なる意識をもって陪餐している人もいるのでしょうか。

聖餐理解は完全に一致していなくてはならないものなのか、あるいは少なくとも一致が目指されるべきものなのか、それとも考え方の多様性が認められるものなのか。このように多くの課題を抱えつつ、今日の具体的な学びに取り組んでいきたいと思

まず、聖餐におけるパンとぶどう酒がどのような意味で「キリストのからだ」「キリストの血」と言えるのか、これにまつわる四つの代表的な立場を概観しておきましょう。

#### ①ローマ・カトリック教会（化体説）

聖餐におけるパンとぶどう酒は、実質的にキリストのからだと血に変化する。キリストは実質的にパンとぶどう酒という物素の中に存在する。

## ②ルター（共在説）

パンとぶどう酒という物素そのものは変化しないが、キリストの臨在はその物質と固く結びついている。すなわち、物素と共に、物素の中に、物素の下に、キリストは現臨する。

## ③ツヴィングリ（象徴説）

パンとぶどう酒は、キリストのからだと血の象徴であり、主の十字架の犠牲を陪餐者に思い起こさせるものである。つまり、聖餐はキリストの死の記念、想起と言える。

## ④カルヴァン（霊的臨在説）

聖霊はパンとぶどう酒を通して、陪餐者を天におられるキリストの臨在にあずからせる。聖餐において、キリストは霊的に現臨される。

以上、四つの立場を簡潔にまとめましたが、本問答書の立ち位置がいずれに該当するかを探ってみましょう。答えの中で「それはただ神のしるし、また確証にすぎない」「キリストの体そのものになるのではありません」と言われているところから、最も近いのは③ではないかと考えられます（リフォームドの基本的な立ち位置は④になりそうではありますが）。また、ここでは「洗礼の水がキリストの血に変わらないように、また、水そのものによって罪を洗い潔めることにはならないように」と、洗礼式の水が「洗いきよめの象徴」であることと比較されてもいます。

現代のキリスト者が以上のような立場の違いを理解するところには、どのような意味があるのでしょうか。パンとぶどう酒に込められている意味の違いは、それを食する人々の意識の違いをもたらしているでしょう。それらを手に持っているとき、口に入れるとき、飲み込むとき、陪餐者が思うこと、感じるものが変わってくるはずですが。物素そのものに神聖さを見出す人もいれば、聖霊が物素を取り巻いていると感じる人もいるでしょう。物素に込められた意味こそが重要だと考える人もいれば、天におられる主イエスとの交わりを思う人もいるでしょう。いずれにせよ、人が心で思うところに他人が介入することはできません。信教の自由から見ても、どのような信仰をもって聖餐にあずかるかということにも自由があるはずですが。四つの立場を学ぶことは、聖餐における教会の立ち位置を確認するためにあると言えるでしょう。その上で、個人が持っている考え方で、修正すべき部分を見つけたり、それまで認識していなかった意味を加えたりしていると思われるのです。よく考え、学び続け、聖餐の深い真理を見出していくことが重要なのではないのでしょうか。